

日羽協試験方法	かさ高測定装置の円筒洗浄方法	JDFA-TM017 2018/12
---------	----------------	-----------------------

序文

羽毛のかさ高測定装置の円筒はステンレス鋼できており、試験を繰り返すことによって羽毛の油脂分やゴミが円筒内面に付着し、表面の摩擦抵抗変化によって測定値に影響を及ぼす可能性がある。このような影響を出来るだけ少なくするため、円筒内面の洗浄方法を以下に定める。

1. 洗浄用具

- (1) 洗浄剤：市販台所用合成洗剤（液性：中性）
- (2) スポンジ：台所用スポンジ（長い持ち手の付いているものが作業性が良い。なおナイロンたわしが付随している場合はたわし面を洗浄に使用しない）
- (3) シンクなど：流水で円筒を洗浄出来るような大きさ、深さをもったシンク、又は容器。あるいは流水で円筒洗浄作業が出来る環境であれば良い。

2. 洗浄手順

- (1) 円筒をシンク中に立て、常温の水道流水で内面を流し、付着物を除去する。
- (2) スポンジを水で湿らせ、洗浄剤の原液を数滴（約8 mL）を滴下しまんべんなくスポンジ全体に行き渡らせる。
- (3) 円筒内面の底部の汚れをスポンジを使って落とす。
- (4) 円筒内面の胴部は、底部との境界から開口部に向かって胴の長さ方向と並行にスポンジを滑らせながら往復し、少しずつ移動させ内面を1周させる。このとき、スポンジを胴部内面の円周方向に滑らせることは、羽毛の動きを妨げる方向で傷がつく恐れがある為、避けること。
- (5) 必要があれば円筒外側についても同様に洗浄する。
- (6) 円筒内面に水道流水を掛けながら洗浄剤を洗い流す。
- (7) 上記（1）～（6）までの操作を再度行う。（洗浄を2回繰り返す）
- (8) 洗浄剤が残らないように十分にすすいだ円筒をシンクから取り出し、平台等に逆さまに静置し、おおかたの水分を切る
- (9) 清浄な綿布またはワイピングクロスで円筒内面の底部の水分を除去する。
- (10) 清浄な綿布またはワイピングクロスで円筒内面の胴部を底部との境界から開口部に向かって胴の長さ方向と並行に軽く滑らせながら往復し、少しずつ移動して内面を1周する。このとき胴部内面を円周方向に滑らせて拭き取ってはならない。
- (11) 必要があれば円筒外側についても同様に水を拭き取る。
- (12) 無理な力を加えることで、円筒の径が歪まないよう注意する。

3. 円筒使用の初期操作

- (1) 洗浄後の円筒は環境試験室内で24時間以上放置する。
- (2) 洗浄後の円筒を初めて測定に使用する場合は、羽毛を用いた測定操作を5回以上繰り返し、円筒内側と羽毛を良くなじませる。
- (3) 上記測定操作で次のような場合は洗浄ムラの可能性があるので再洗浄する。
 - ① 羽毛が円筒内面に不均一に付着する
 - ② 荷重円盤が大きく傾いて落下する
 - ③ 測定値がばらつく

4. 洗浄頻度

円筒内部の汚れは試験頻度や羽毛の精製度合いなどによって異なるため、洗浄の頻度は一定ではないが、汚れの程度により必要に応じて実施すること。

以上（2018/Dec/12）